

## 5. 大腸内視鏡検査前処置の副作用要因分析

恩賜財団済生会熊本病院 6 西病棟

○長谷 梨沙、大洲 寛子、川口 千恵  
榊 貴美子、木崎 智代

## 【目的】

A病院は高度急性期病院として断らない救急を目指し24時間体制で患者を受け入れている。患者の高齢化や、併存症の増悪、合併症発生リスクの高い患者も多い。その中で年間約2400例の大腸内視鏡検査（CS）を実施している。より安全な検査実施が求められる中、腸洗浄剤飲用時に副作用が発生する事例が年に数十件報告されている。今回、副作用発生事例の現状を分析し今後の課題を検討した。

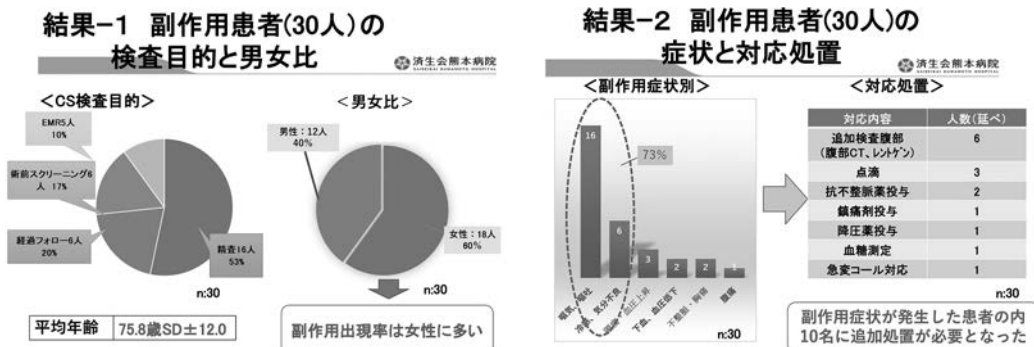
## 【調査方法】

対象：2018年1月1日～2018年12月31日の腸洗浄剤飲用患者2188名中、副作用出現者30名  
方法：カルテ調査

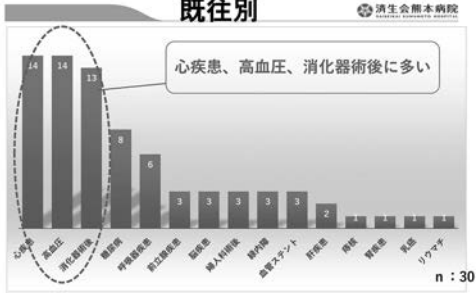
## 【結果】

平均年齢75.8歳SD±12.0 男12名、女18名。全体平均と比較すると、年齢は+6歳、男女比は逆転し、女性に副作用出現者が多くみられた。また症状の内訳は①嘔気嘔吐16名②気分不良、冷感6名③頭痛、血圧上昇3名④下血、血圧低下2名⑤不整脈発作1名⑥胸痛1名⑦腹痛1名、計30名でCS総数の1.4%であった。追加検査やモニター管理など医療行為を要した件数は10名であった。

副作用出現患者30名の既往を調査すると、心疾患14名、高血圧14名、消化器術後患者13名と約半数を占めていた。副作用出現と既往の関連を確認するため、心疾患、消化器術後患者と副作用の出現状況をカイ2乗検定で比較検討したところ、2項目ともに $P<0.01$ となり有意差を認めた。



**結果-3 副作用患者(30人)の既往別**



**結果-4 副作用と既往の関連性**

<副作用の出現と心疾患既往の有無>

		心疾患		合計
		あり	なし	
副作用	あり	14	16	30
	なし	318	1840	2158
合計		332	1856	2188

カイ2乗検定 P<0.01 有意差あり

<副作用の出現と消化管術後の有無>

		消化管術後		合計
		あり	なし	
副作用	あり	14	16	30
	なし	318	1840	2158
合計		332	1856	2188

カイ2乗検定 P<0.01 有意差あり

**【考察】**

副作用が出現した患者では、高齢女性に多く、器質的狭窄や解剖生理学的な筋力の影響、腸蠕動、癒着による影響があると考えられた。また、腸洗浄剤の飲用による浸透圧の影響で、循環動態のバランスが崩れ、不整脈や高低血圧、気分不良に繋がっていると示唆された。さらに、副作用出現には、心疾患や消化器術後の既往をもつ患者に多く認められた。心疾患患者は前処置不良となりやすい先行研究もあり、腸管の運動不足や器質的狭窄、癒着などが副作用の出現にも影響していると考えられる。

**【結語】**

高齢女性かつ、消化器外科術後、心疾患を有する患者に腸洗浄剤飲用中の副作用が多くみられた。

そのため、年齢や性別、既往などの検査前のリスク評価や、前処置中の観察を適切におこなう事が重要である。今後、副作用低減に向けて記録の徹底やスタッフ教育、患者教育に努めていきたい。

【連絡先：〒861-4193 熊本市南区近見5丁目3-1 Tel.096-351-8000】